

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0591100078		
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム あいかわ		
所在地	秋田県北秋田市新田目字大野 5番地 1		
自己評価作成日	平成 23年 11月 30日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1		
訪問調査日	平成 23年 12月 14日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

<p>小規模多機能型居宅介護事業所と併設のため、利用者同士が交流することができます。看護師が2名おり、交代で週6日間の午前中、入居者の健康管理や受診の介助を行っています。日中は両事業所の職員が見守りができ、夜間は併設の夜勤者と2名で見守りを行っています。町の中心部に位置し、施設前には公園があり、近所の方々が気軽に声をかけてくれます。</p>

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

<p>小規模多機能型居宅介護事業所と併設の事業所であることの「利便性」や「効果」を最大限に活用している。特に、看護師の常駐や夜勤者の介護への協力、調理、会議、利用者同士の交流等で効果が大きい。また、苦情解決第三者委員による相談会を設け、家族や利用者から意見や要望等の聞き取りを行ったり、心身機能低下予防への取り組み等、業務改善に取り組み実践している。利用者個々へのサービスも、きめ細かく提供することを念頭に「個人史」を作成している。利用者の表情も明るく事業所全体が清潔感に溢れている。町内会行事にも積極的に参加し、ボランティア受入れ等も行われており、透明性が確保されている事業所である。</p>

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらい 3. 家族の 1/3 くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと動いている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらい 3. 職員の 1/3 くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらい 3. 家族等の 1/3 くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-)+ (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を創り、玄関の目の届く場所に掲示し、実践に向け取り組んでいる。	皆様の生活に合わせ穏やかで生きがいのある施設を目指します」の理念を、玄関正面廊下に掲げ、都度、職員の目が触れるようにしている。	掲示だけにとどまらず、各種会議等を通して共通理解を図る機会を多く持つことが期待される。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加するように努め、近所の方を行事に招待している。昼食の準備にボランティアに協力いただいている。	町内自治会や祭り、行事等への参加の他、事業所や法人が主催する行事へ地域の方を招待している。又、地域を飾る花々の、プランターの水かけ管理を担っている。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域に出向き、事業所の説明と、認知症について伝える機会を持つ予定としている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回定期的に行い、意見を頂いている。会議内容を工夫するために、他の事業所の取り組みや、推進委員さんに意見を参考にし、会議に取り入れた。	会議は、行政、自治会長、民生委員、家族代表、事業所関係者で構成している。外部評価結果や事業の取り組み状況等を報告している。会議で食事の試食会を行う等、工夫している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、助言、指導頂いている。生活保護受給者も入居しており、判断に困った際には相談している。	市担当者との関係は良好である。担当者が事業所の現状を受け止め、様々な課題解決に向けて一緒に取り組んで行こうとしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束廃止マニュアルを作成し、事業所でも学習会を行い、身体拘束のない介護を学び実践している。	事業所は、身体拘束をしないケアを自然な姿と捉え、日々の支援を行っている。又、身体拘束を理解するための研修に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で高齢者等虐待防止マニュアルを作成し、事業所でも学習会を行い、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解するため、学習会を計画している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、納得のうえ同意いただいている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決第三者委員による相談日を実施し、意見を聴く機会を設けた。ご意見箱を設置し、いただいた意見を掲示し公表している。	家族や利用者から意見を聞くため、苦情解決第三者委員による相談日を設けている。出された意見については運営推進会議でも報告し、事業に反映させている。又、意見箱を設置しており、内容を公表している。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個人面談により意見を聞き、改善に努めている。また、月2回運営会議を行い意見や提案を示せる機会が合う。	職員が、意見を出し易い雰囲気づくりに努めている。職員からの要望で物干しを設置するなど、法人や管理者は、職員の意見やアイデアを真摯に取り上げ、業務改善に努めている。	年間を通じて職員研修を実施しているが、内部研修を「運営規程」や「各種マニュアル」の確認にとどまらず、より深い研修内容としていくことが期待される。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めている	個人面談により職員の意見、要望を把握し改善に努めている。法人では、年1回職員登用試験を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会をつくり、復命書にて回覧している。研修計画により内部研修も行っている。法人内の研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で運営している事業所を把握し、自分の職場で活かせるように事業所めぐり、交換研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面接を行い本人、家族の意向を聴き信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面接を行い本人、家族の意向を聴き信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理や片付けなど、出来る事は職員と一緒に手伝ってもらい、共に過ごせるよう努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時等に、日頃の様子を伝え、気軽に何でも話して頂けるよう努めている。月1回暮らしぶりをお便りで知らせている。交流会を計画し招待している。</p>		
20	⑧)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている</p>	<p>馴染みの人との関係が途切れないよう、行きつけの場所への支援に努めている。</p>	<p>本人が培ってきた家族や社会との関係が途切れない様、馴染みの理容所、美容院、病院等への利用を支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>他の利用者の出来ない所を手伝ってくれる。利用者同士の関係が悪くならないよう座席にも気をつけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、気軽に声をかけるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	⑨)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を十分に聞き、希望に沿えるように努めている。	得意なこと、やりたいこと等、希望に沿った暮らしを支援している。希望等を表現することが難しい利用者については、日常のかかわりの中で、動きや表情等様々な表出から把握し、ケアに? げている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に生活歴を記入していただき、情報収集に努め、自宅と同じように過ごせるように心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族に生活歴を記入していただき、情報収集に努め、自宅と同じように過ごせるように心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に担当者を設け、毎月の会議で状況を確認し、意見を反映して作成している。家族からは面会時に意見等を聞くように努めている。	本人や家族の意見を計画に活かしている。現状に即したケア計画を作成し、状態変化の都度、見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に記入し、朝夕の申し送りをを行い情報の共有をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	合川教会とはクリスマス会など定期的に交流している。昼食の準備にボランティアの協力を頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人が以前から通院している医療機関で受診している。	本人や家族が希望する医療機関への受診や薬局への利用を支援している。受診は、主に事業所が付き添っているが、家族が付き添った場合は結果を適宣受け、共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	利用者の体調について気付いた事は、看護師に相談し指示を仰ぎ、必要に応じ受診している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、看護師、管理者、病院関係者などで連絡を取りながら進めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合に係る指針を説明し、得ている。法人内の看護専門部会で勉強会を行い、今後、検討する予定となっている。身体機能低下防止のため、毎日の日課に体操を取り入れた。	重度化した場合の対応にかかる指針を作成し、利用開始前に本人や家族等に説明している。また、利用開始時に終末期についての希望を書面で交している。看取りの事例はないが、法人内の事例を参考に検討している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、職員全員が救命講習会を受講している。看護師には24時間連絡を取れる体制となっている。館内にAEDを設置している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方と一緒に避難訓練を行った。近隣住民、消防署員と意見交換を行い、夜間、冬期間の避難場所を、隣のあいかわ地域福祉センターと決めた。	消防署や近隣住民も参加し、合同訓練を実施している。スプリンクラー等の防災設備や緊急時の際の関係機関等への連絡体制も整備されている。年度内に自家発電の設置を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報保護の誓約書を交わし、プライバシーを損ねない言葉かけに努めているが、感情的になり言葉が乱れることがあるので、時々、注意を促している。	個人情報取り扱いの研修を行うなど、事業所として個人情報保護の徹底に努め、取り組んでいる。職員は、利用者の気持ちを大切にしたいという思いをもち、言葉づかいにも細心の注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べ物や外出など希望を聞き、出来る範囲で希望に沿えるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり好きな場所で、自由に過ごして頂けるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望の理美容院に行けるように支援している。服装を選べる方は、自分で選んで着替えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に聞きながら、職員が献立を立てている。野菜の皮むきや、下膳、食器洗いを一緒に行っている。	利用者の希望を取り入れた献立を作成している。下ごしらえや、下膳、後片づけ等を利用者と一緒に行う等、食事を楽しむ工夫をしている。時々、野菜などの食材を、地域住民から提供されることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量、食事量を記録している。ご飯の量など本人の希望に合わせている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声かけを行い、困難な方には職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し一人ひとりに合わせた、声かけ、誘導を行っている。	個々の尊厳を傷つけないよう心がけて支援している。排泄パターンを把握し、スタッフ間で連携を図り、トイレ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲める方には毎日、牛乳を提供し、水分補給を促し便秘の予防に努めている。便秘の方は、薬で調整している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は職員の都合で決められているが、希望があれば対応するように努めている。健康状態に関しては、看護師に相談している。	利用者が週に2回入浴できるよう支援しており、希望や、状況に応じて柔軟に入浴できるよう対応している。衛生面に配慮し、利用者毎にお湯を入れ替え、消毒をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよ眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息、睡眠出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理マニュアルの徹底に努めている。入居者の処方内容をファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が出来る役割を持って頂くように支援している。楽しみごと、本人の希望に沿えるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の希望により外出する方は少ないが、年間の行事計画を立て、外出の機会を作っている	可能な限り戸外に出る様心掛け、実践している。遠出には、年間計画を作成し、森吉山への紅葉見学や花見、ドライブ等を楽しむなど、季節を感じられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の依頼により施設側で管理し、毎月収支を報告を行っている少額を自己管理している方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた手作りのカレンダーを貼り、植物を置いている。毎日、掃除、消毒を行い、気持ちよく過ごして頂けるように心掛けている。	食堂（ホール）、廊下等、利用者が居心地よく過ごせる様、観葉植物や利用者の創作品等が飾られ、清潔感のある空間づくりを行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファや畳のスペースがあり、気の合う利用者同士、自由な場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の希望する、使い慣れているものを持って来て頂いている。思い出の写真などを壁に貼っている方もいる。	安らぎを得られる様、利用者は使い慣れた馴染みの物を持ち込んでおり、家庭的な雰囲気であることが確認できた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をあまり変えないようにし、混乱を防いでいる。出来る事は声かけにより行っている。		